

お母さん、
子どもを伸ばしたいなら、
もっと遊ばせなさい。



人間にとって、遊びって大切なんですか？
小林先生、教えてください。

たとえば、かくれんぼ。走って、かくれて、考えて、また走って。
そのとき人間はこころもあたまもいっぺんに使っています。
からだを動かす遊びは、人間を総合的に成長させる力がある。
私が長年研究してきた「ムーブメント教育・療法」ではそう考えます。
これは、教育や支援の現場に、運動遊びを取り入れるという方法。
子どもや障がい者の自発性を引き出してあげることで、
「からだ」「こころ」「あたま」の調和のとれた発達を図り、
最終的には、その人の幸福感の達成をめざしています。
世界的に研究・実践が進むにつれ、運動遊びが
学力や身体能力の向上、こころの発達にも寄与することも
わかってきました。人間、なんでも楽しんだ方がいいんですね。
お母さん、ぜひ、お子さんをもっと遊ばせてください。



身体環境共生学科
教授 小林芳文



現代人間学部

小田急線鶴川駅から

表現学部

徒歩約15分

経済経営学部

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学